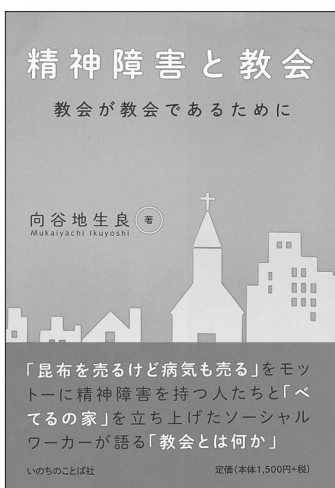




精神障害と教会 教会が教会であるために

向谷地生良＝著

定価1620円（本体1500円＋税8%）

いのちのことば社 ☎03-5341-6924

「昆布を売るけど病気も売る」をモットーに、精神障害を持つ人たちと「べてるの家」を立ち上げた著者は、「教会とは何か」と問われて次のように語る。「神様は不思議と、私たちと仲間との出会いを“愛しやすい”かたちで用意されません。ですから、愛するとは、最も愛しにくい人と、愛しにくい状態で出会うことなのだということを学んできました。そう考えると、教会には“人の苦勞と悩み”という宝、たくさんの恵みが蓄積されていることに気づきます」。

やわらかな言葉と体のレッスン

尹雄大＝著

定価1836円（本体1700円＋税8%）

春秋社 ☎03-3255-9611



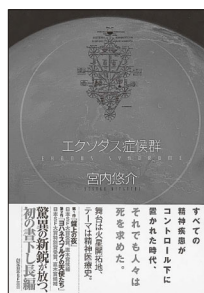
著者はこの本で試みようとしたことを次のように解説する。「言葉やそれを用いたコミュニケーションについて、頭であれこれ考えるのではなく、体から考えていきます。感覚とは、体であり、いま現に生きているということそのものです。つまりは“いま・ここ・わたし”のこと。そこから言葉を考えてみたかどうかということになるか」。

エクソダス症候群

宮内悠介＝著

定価1836円（本体1700円＋税8%）

東京創元社 ☎03-3268-8231



第1作品集『盤上の夜』で日本SF大賞受賞、直木賞候補となった気鋭の作家が、初めての書き下ろし長編としてテーマに選んだのは「精神医療史」。舞台は火星開拓地。地球の大学病院を追われた青年医師カズギが着任したのは、薬もベッドもスタッフも不足した、過酷な開拓地の病院だった……。

さらさらさん

大野更紗＝著

定価799円（本体740円＋税8%）

ポプラ社 ☎03-3357-2212



20万部のベストセラーとなった『困ってるひと』の著者が綴る、さまざまな出会い。「難病の当事者になって、意外だったことがあります。身体は病み、薙れ、できないことが増えました。しかし同時に、まったく想像もしなかった手段や方法でできることも増えました」。しなやかな心を堪能あれ。

幸福な絶望

坂口恭平＝著

定価1620円（本体1500円＋税8%）

講談社 ☎03-5395-3502



躁鬱の活動詩人・坂口恭平がその毎日を記す。死なないために。生きるために。他人の日記はたいてい退屈だが、これは読まされてしまう。家族の前で自らをさらし、躁鬱の嵐のなかを生きる姿は、爽快ですらある。鬱の坂口は、妻を困らせるぐらい「死にたい」を連発するのだけれど。